

様式1 令和7年度 山梨県立上野原高等学校学校評価 実施報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	校訓「観知創造」の精神のもと、21世紀をたくましく、心豊かに生き抜き、社会の進展や調和に貢献できる人間を目指す	
本年度の重点目標	<p>1 基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。</p> <p>2 多様な学びを通して、確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現を目指したキャリア教育の充実を図る。</p> <p>3 生徒会活動を活性化するとともに、諸活動を通して心身の健やかな成長を図る指導に努める。</p>	<p>A ほぼ達成できた。(8割以上)</p> <p>B 概ね達成できた。(6割以上)</p> <p>C 不十分である。(4割以上)</p> <p>D 達成できなかった。(4割以下)</p>

山梨県立上野原高等学校校長 秋山 すみ江	
評価	<p>4 良くできている。</p> <p>3 できている。</p> <p>2 あまりできていない。</p> <p>1 できていない。</p>

番号	本年度の重点目標			自己評価		年度末評価(3月31日現在)
	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	
1	基本的な生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	<p>① 自己管理能力の育成を図り、遅刻や欠席、朝食の欠食を減らす基本的な生活習慣の確立を図る指導</p> <p>② 法令遵守及び社会規範への意識を高め、確立を図る指導</p> <p>③ 節電・節水、ごみの分別などを通じて、環境美化を意識させる指導</p>	<p>学校評価アンケート等</p> <p>学校評価アンケート等</p> <p>学校評価アンケート等</p>	<p>以下、生徒評価・教員評価の上位2項目、下位2項目のうち、この評価項目に該当する結果のみ示す。(数字)は順位 [ ]は評価点</p> <p>上位項目 【教員評価】(1) 節電・節水・ごみの分別[46] (2) 防災・減災[36] 【生徒評価】(1) 授業開始の着席[87] (2) 校則を守る[81]</p> <p>下位項目 【教員評価】(1) 基本的な生活習慣[24] (2) スマホ・SNSの利用[31] 【生徒評価】(1) 朝食を毎日食べる[61] (2) 避難場所と経路[63]</p>	A	<p>【評価点】 報告書に記載した数値は原則これである。R4評価→R5評価[増減]</p> <p>評価点は、回答%に係数を乗算した総和(計算式) 中央値は(0)となる</p> <p>昨年度から改善した項目(10ポイント以上増加) 【教員評価】 ・スマホSNSの適切な使用 +17 【生徒評価】 7ポイント以上増加 ・朝食は毎日食べる +7 ・感染予防の対策 +7</p> <p>次年度改善を要する課題(10ポイント以上減少) 【教員評価】 ・該当項目なし 【生徒評価】 7ポイント以上減少 ・該当項目なし</p> <p>スマホやSNSの利用に関して大きな改善が見られた。ただし教員と生徒の間に利用に関する意識の差は大きく、今後も情報リテラシーの育成に学校として実践していくことが求められる。</p>
2	多様な学びを通して、確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現を目指したキャリア教育の充実を図る。	<p>① 家庭学習と授業の一体化を進め、確かな学力の定着を図ると共に、学ぶ意欲を高め、主体的・協働的な学びを深める指導</p> <p>② 相談活動及び個々に応じた指導の充実を図り、個々のキャリアを形成していく進路実現を図る指導</p> <p>③ 主催者教育や社会参画・地域連携事業を通して、未来を担う公民としての資質を育む指導</p>	<p>授業アンケート等</p> <p>産業界と人間、総合的な学習の時間での指導</p> <p>行事アンケート等</p>	<p>以下、生徒評価・教員評価の上位2項目、下位2項目のうち、この評価項目に該当する結果のみ示す。(数字)は順位 [ ]は評価点</p> <p>上位項目 【教員評価】(1) 基礎基本の定着の指導[59] (2) さまざまな観点評価[57] 【生徒評価】(1) 成績評価の標準理解[78] (2) 教科・科目が自分の進路に合っている[74]</p> <p>下位項目 【教員評価】(1) 家庭学習と授業の一体化[0] (2) 補充的学習指導[32] 【生徒評価】(1) 自主的に学習に取り組む習慣[14] (2) 授業進行計画の把握[43]</p>	B	<p>昨年度から改善した項目(10ポイント以上増加) 【教員評価】 ・発展的な学習指導 +23 ・基礎基本の定着を図る指導 +11 【生徒評価】 7ポイント以上増加 ・宿題や課題が提出できる +7</p> <p>次年度改善を要する課題(10ポイント以上減少) 【教員評価】 ・該当項目なし 【生徒評価】 7ポイント以上減少 ・シラバス等による授業進行計画の把握 -9 ・自主的に学習に取り組む習慣 -7 ・授業が理解できる -7</p> <p>学習指導に関して教員評価に一定の肯定評価があった。しかし授業と家庭学習を結びつける仕組みについてまだ研究の余地は大きい。生徒の評価における「授業が理解できる」ところから再度授業改善を図り、長年の課題である「自主的な学習習慣」の確立のために、協働学習の促進や更なる個別最適化取り組みが必要と考えられる。</p>
3	生徒会活動を活性化するとともに、諸活動を通して心身の健やかな成長を図る指導に努める。	<p>① 文武両道の実践に向けた指導と各部の目標達成への積極的且つ規律ある部活動の指導</p> <p>② ホームルーム活動を通して活力あるクラスづくりを目指すと共に、いじめをなくし生命と人格を尊重する態度を育てる指導</p> <p>③ 集団活動や種々の読書活動を通して、思考力・判断力・表現力などの育成を図り、他と協働し協力し合うなど、思いやりのある心を育てる指導</p>	<p>学校評価アンケート等</p> <p>心ボックスやいじめアンケートの活用</p> <p>学校評価アンケート等</p>	<p>以下、生徒評価・教員評価の上位2項目、下位2項目のうち、この評価項目に該当する結果のみ示す。(数字)は順位 [ ]は評価点</p> <p>上位項目 【教員評価】(1) カウンセリングマインドで生徒に应对[61] (2) 勤労観・職業観の育成[55] 【生徒評価】(1) 学んでSNSの正しい使い方ができる[80] (2) 楽しく学校生活を送れている[72] (2) 生徒会行事・HR活動の積極的な参加[72]</p> <p>下位項目 【教員評価】(1) 文武両道の指導[8] (2) 部の規律ある指導[22] 【生徒評価】(1) 部活動への積極参加[43] (2) 朝読書への積極的な取り組み[60]</p>	B	<p>昨年度から改善した項目(10ポイント以上増加) 【教員評価】 ・該当項目なし 【生徒評価】 7ポイント以上増加 ・該当項目なし</p> <p>次年度改善を要する課題(10ポイント以上減少) 【教員評価】 ・生徒会活動の活性化 -23 ・朝読書に取り組ませる指導 -22 ・活力あるクラスづくり -18 【生徒評価】 7ポイント以上減少 ・朝読書への取り組み -15 ・部活動への積極参加 -9</p> <p>令和7年度、大きく評価が下がった課題として浮き彫りになった。一つは、部活動への参加と生徒会活動の活性化の工夫である。小規模校ゆえに物理的な制限はあるが、今後校内のみならず他校との連携も前提に活性化が求められている。もう一つは、朝読書の取り組みである。朝の時間を読書により心静かにスタートすることと基本的な読解力の育成という意義を改めて確認し、実践の充実を図る。</p>
4	教職員の働き方改革を進める。	ICTの活用を促進し、日業務や授業準備などに係る時間短縮と効率化を図る取り組み	職員アンケート等	職員間で協力・協働する業務への参加[73] 業務や授業で効率化を図る取り組み[53]	A	<p>職員間で協力・協働する業務への参加 +12 業務や授業で効率化を図る取り組み +11</p>

学校関係者評価	
評価	意見・要望等
3	<p>・情報社会で生活する上で、情報リテラシーの向上については生活と切り離すことはできず、特に重要と考える。高校3年間という短い期間であるが、生徒たちに公開された情報が半永久的にインターネットに残り続けることを念頭に指導していくべきである。</p> <p>・このような調査では、生徒評価が下がること=良くない、学校の努力が足りないというわけではと考える。生徒は必ずしも教員の思う通りに反応しないこともある。評価する場合、①絶対値としてどうか ②前回との比較 ③増減率などを算出することが意味を分かりやすくすると思うので検討願いたい。</p> <p>・卒業生などを使い、学校のアピールをしただろうか。中学生にとって先輩からの話は身近に感じられると思う。生徒たちが授業にどう取り組んでいるか、どう感じているのか動画などにまとめて公開するのも良いだろう。</p>
3	<p>・大学、専門学校、就職など多岐に渡る進路希望がある中で、やはり一定の学力の定着は社会生活を送る上で重要である。</p> <p>・生徒数が少ないことが、良くも悪くも制限要因になっていると思うが、それをメリットと捉え、丁寧に生徒に対する指導が行われている。</p> <p>・先生方の生徒への対応や指導が行き届いていることが大変素晴らしい。以前に比べると生徒の人数も減ったが、一人一人に対してきめ細やかな指導ができるのではないかと評価する。</p> <p>・学力向上だけでなく、コミュニケーションスキルの向上などもキャリア形成に必須なので、生徒個々に合わせた指導をしてほしい。</p>
3	<p>・生徒が少ないことで部活動や生徒会活動に苦労しているようだが、有意義な活動になるよう良く努力していると思う。</p> <p>・情報を自分で取りに行く環境が周囲や地域に存在する。現代の第一線で働く方々によるお話し会やワークショップなど定期的に開催されているので、それらを利用しながら自分の視野を広げてほしい。</p> <p>・文武両道の実践、HR活動、集団活動など多くの人と触れ合うことで、今後の社会的スキルの向上が期待できる。多様な指導を継続してほしい。</p> <p>・学園祭は家族のみのようだが、もう少し小中学生や地域の方々にもオープンにし学校を知ってもらう機会になるよう検討してほしい。</p> <p>・朝読書は良い取り組みなので続けてほしい。教員と生徒の両方で評価が下がったが、ポイントは高いので、改善すべきところを見つけて工夫すると良い。</p>
4	<p>・教職員の働き方改革を進める場合、生徒指導を行う余暇時間の創設が重要と考える。また改革することで、生徒が取り組む行事やイベントが縮小や廃止にならないよう配慮してほしい。</p>

※評価点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。